分類	区分	処置	*苦痛度の カテゴリー	
実験的処置	個体識別	色素塗布・毛刈り	B	
		耳パンチ/耳カット	B	
		耳ピアス/タグ/イヤリング	B	
		入れ墨	B	
		マイクロチップ(ICチップ)	B	
	保定/固定	【保定:数分間の姿勢制御、固定:器具を使った数分間の姿勢制御】		
		保定(用手)	B	
		保定(ディスク拘束衣;採血、投与など短時間の処置時に用いる)	B	
		固定(マウス、ラット固定器;採血、投与など短時間の処置時に用いる)	B	
		行動制限ケージ	C	
	拘束	【拘束:長時間にわたる姿勢制御、生理・生態・習性の制御】		
		器具や拘束衣等による拘束(短時間)	C	
		器具や拘束衣等による拘束(数時間以上)	D	
	給餌・給水制限	【2、3日で体重が20%以上減少した場合は中止する。実験の特質上大きな体重減少が見込まれる場合は、動物実験委員会や実験動物管理者にアドバイスを求め対処する】		
		給餌(2~3時間以内)	B	
		給餌(半日以上~1日以内)	C	
		給餌(1日以上)	D	
		給水(2~3時間以内)	B	
		給水(数時間以上~半日以内)	C	
		給水(半日以上)	D	
	負荷試験	トレッドミル(回転加速度負荷)(自発的に運動を中止できなければC)	B/C	
		トレッドミル(直線加速度負荷)(自発的に運動を中止できなければC)	B/C	
		振とう負荷	B	
		拘束ストレス(短時間)	C	
		拘束ストレス(数時間以上)	D	
		再灌流負荷(肝臓、脳)	C	
		母子分離負荷(マウス、ラット)	C	
		水回避ストレス(短時間)	C	
	行動観察	摂餌・摂水(味覚嗜好性含む)	B	
		行動量・運動量測定(強制せず)	B	
		自発行動の観察(発情行動、オープンフィールド試験、自発的レバー押し等)	B	
		記憶・学習測定(迷路学習・嫌悪学習を含む)	C	
		強制運動、生態・習性の制限、劣悪環境へ曝露した際の行動観察	C	
		尾懸垂試験(半重力下の懸垂実験)	D	
		水迷路学習(飼育室温以上の水温)	D	
		強制水泳試験	D	
	身体測定(無麻酔)	体重・体長・体格測定	B	
		体温測定	B	
		超音波エコー(保定拘束状態により苦痛度が異なる)	B/C	
		心電図検査(保定拘束状態により苦痛度が異なる)	B/C	
		脳波測定(保定拘束状態により苦痛度が異なる)	B/C	
		非観血的血圧測定(保定拘束状態により苦痛度が異なる)	B/C	
	身体測定(麻酔下)	心電図検査	B	
		超音波エコー	B	
		観血的血圧測定	B	
		気道抵抗測定	B	
膀胱内圧測定・尿道内圧測定		B		
CT(X-rayイメージング・レントゲン撮影)単純撮影		B		
CT(X-rayイメージング・レントゲン撮影)造影剤使用		B		
MRI		B		
PET		B		
蛍光/発光イメージング		B		

分類	区分	処置	*苦痛度の カテゴリ
	採血・採材(無麻酔)	静脈(単回)	B
		動脈(単回)	B
		静脈(経時的・数時間単位で実施する場合)	C
		腹水	B
		尿・糞・唾液	B
		被毛・毛根	B
		皮膚バイオプシー	C
		精液	B
		スワブ(鼻腔、口腔)	B
		テールカット	C
	採血・採材(麻酔下)	静脈(単回)	B
		静脈(経時的)	C
		心臓穿刺	C
		留置カテーテル	B
		尿	B
		テールカット	B
	投与(無麻酔)	吸入	B
		点鼻・点眼	B
		自由摂取(経口摂取)(飲水溶解/懸濁、混懸)	B
		胃ゾンデ/カテーテルによる経口(熟練者)(投与量により異なる)	B/C
		経皮(パッチ)/経粘膜	B
		内耳注入投与	B
		皮内・皮下	B
		静脈・動脈内	B
		腹腔内	B
		筋肉内	B
		直腸内	B
		フードパッド内(できるだけフロイントコンプリートアジュバンドの使用は避ける)	D
		投与(麻酔下)	点鼻・経鼻
	胃ゾンデ/カテーテルによる経口		B
	静脈・静脈内		B
	腹腔内		B
	経粘膜		B
	点眼(眼球への擦過傷形成含む)		B
	眼球内		C
	脳・脳室内・脊髄内		C
	門脈内		C
	消化管内		C
	神経根投与・末梢神経への投与(ブロックを除く)		C
	臓器内		C
最終処分(無麻酔)	頸椎脱臼(要トレーニング)	B	
	断頭(保定、鋭利なブレードの使用)[科学的理由がある場合のみ]	B	
	炭酸ガス(ボンベより)	B	
	安楽死として認められたその他のガス	B	
	麻酔薬の過剰投与	B	
最終処分(麻酔下)	放血	B	
	全採血	B	
	断頭[科学的理由がある場合のみ]	B	
	灌流固定	B	

(*苦痛のカテゴリは最大限の病態が得られることを前提とする。実験に使用する時点で「臨床症状が現れる前の初期段階」あるいは「臨床症状が現れるが、苦痛の程度が低い」場合は、その旨を明記して苦痛度を下げる。)

人道的エンドポイントの設定: 苦痛カテゴリDは必ず、苦痛カテゴリC以下でも必要に応じて適用を検討しなければならない。

(参考: 苦痛分類Scientists Center for Animal Welfare: SCAW)

(参考: 国立大学動物実験施設協議会HP)

(参考: Folia Pharmacol. Jpn. 141, 141~149, 2013)